

- 相續以外ノ原因ニ因ル移轉
 - 一 實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金二圓
 - 二 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定 債權金額 金一圓
 - 三 前二號ノ權利ノ移轉 千分ノ六
 - 相續
 - 一 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五十錢
 - 二 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓
- 五 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限
 - 債權金額 千分ノ四
 - 每一件 金二十錢
- 六 登録ノ更正、變更又ハ抹消
 - 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 第十二條ノ二 實用新案ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 實用新案權ノ移轉
 - 相續
 - 一 實用新案權ノ移轉 每一件 金一圓
 - 二 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五圓
 - 三 使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存 每一件 金二圓
 - 四 前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定 債權金額 千分ノ六
 - 相續
 - 一 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金五十錢
 - 二 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金一圓

- 五 滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限
 - 債權金額 千分ノ四
 - 每一件 金二十錢
- 六 登録ノ更正、變更又ハ抹消
 - 債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
- 第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ但シ聯合商標ニ在リテハ各其ノ半額トス
 - 一 商標權ノ移轉
 - 相續
 - 一 商標權ノ移轉 每一件 金一圓
 - 二 相續以外ノ原因ニ因ル移轉 每一件 金十圓
 - 二 登録ノ更正、變更又ハ抹消 每一件 金五十錢

○勅令ニ依ル特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手数料

明治四十二年十月二十三日 勅令 第三百三號

- 第一條 特許法、意匠法、商標法若ハ實用新案法又ハ之ニ基キテ發スル勅令ニ依リ出願、請求若ハ届出ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手数料ヲ納ムヘシ
- 一 特許出願 每一件 金五圓
 - 二 追加特許出願 每一件 金三圓

勅令ニ依ル特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手数料

- 三 特許出願人ノ名義變更届出 每一件 金二圓五十錢
- 四 追加特許出願人ノ名義變更届出 每一件 金一圓五十錢
- 五 特許證複本ノ請求 每一件 金三圓
- 六 追加特許證複本ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 七 特許權存續期間延長ノ請求 每一件 金二十五圓
- 八 特許權改訂許可出願 每一件 金五圓
- 九 特許權分割許可出願 每一箇 金五圓
- 十 特許權取消ノ請求 每一件 金十圓
- 十一 意匠登録出願 每一件 金一圓
- 十二 意匠ヲ祕密ニセムトスルノ請求 每一件 金一圓
- 十三 意匠登録出願人ノ名義變更届出 每一件 金五十錢
- 十四 意匠登録證複本ノ請求 每一件 金五十錢
- 十五 實用新案登録出願 每一件 金二圓
- 十六 實用新案登録出願人ノ名義變更届出 每一件 金一圓
- 十七 實用新案登録證複本ノ請求 每一件 金一圓
- 十八 商標又ハ標章ノ登録出願 每一件 金三圓
- 十九 商標又ハ標章ノ登録出願人ノ名義變更届出 每一件 金一圓五十錢
- 二十 商標又ハ標章ノ登録證複本ノ請求 每一件 金一圓五十錢
- 二十一 商標權又ハ標章權存續期間更新ノ登録出願 每一件 金二圓
- 二十二 商標又ハ標章登録取消ノ請求 每一件 金五圓

- 二十三 法定ノ期間延長ノ請求 每一件 金五十錢
 - 二十四 法定又ハ指定ノ期間懈怠ノ結果ヲ免レムトスルノ請求 每一件 金一圓
 - 二十五 證明ノ請求 每一件 金五十錢
 - 二十六 書類ノ謄本ノ請求 每一件 金十錢
 - 二十七 圖面ノ調製ノ請求 每一件 金十錢
 - 二十八 書類ノ閲覽ノ請求 每一件 金十錢
 - 二十九 書類ノ謄寫ノ請求 每一件 金十錢
 - 三十 再審査ノ請求 每一件 金十二圓
 - 三十一 審判又ハ抗告審判ノ請求 每一件 金三圓
 - 三十二 參加ノ請求 每一件 金一圓
 - 三十三 費用額決定ノ請求 每一件 金一圓
 - 三十四 費用額決定又ハ補償金額確定審決ノ執行力アル正本ノ請求 每一件 金一圓
- 贈本一枚ニ付金十錢 歐文符類ノ謄本ハ百語ニ付金十錢 百語ニ滿タサルモノ亦同シ 但シ書類中圖面アルトキハ其ノ部分ニ關シ圖面調製ノ例ニ依ル
 圖面一枚ニ付金三十錢以上金三十圓以下
 金十錢
 一時間ニ滿タサルモノハ一時間トス
 一時間ニ滿タサルモノハ一時間トス

第二條 前條ノ規定ハ國ノ出願、請求又ハ届出ニ之ヲ適用セス
 第三條 第一條第十一號乃至第十三號、第十八號、第十九號及第二十一號ニ規定スル手数料ハ同一物品ニ應用スル互ニ相類似スル意匠及聯合商標ニ在リテハ各其ノ半額トス
 第四條 手数料ハ收入印紙ヲ願書、請求書又ハ届出書ニ貼附シ之ヲ納ムヘシ

勅令ニ依ル特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手数料

附 則

本令ハ特許法、意匠法、商標法及實用新案法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○省令ニ依ル特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル手数料

明治四十二年十月二十六日
農商務省令第五十二號

- 第一條 特許、意匠、商標又ハ實用新案ニ關シ特許局ニ對シ左ニ掲クル請求又ハ届出ヲ爲ス者ハ手数料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ
- 一 特許證再下付ノ請求 每一件 金二圓五十錢
 - 二 追加特許證再下付ノ請求 每一件 金一圓五十錢
 - 三 特許證差出免除ノ請求 每一件 金二圓五十錢
 - 四 追加特許證差出免除ノ請求 每一件 金一圓五十錢
 - 五 意匠登錄證再下付ノ請求 每一件 金五十錢
 - 六 意匠登錄證差出免除ノ請求 每一件 金五十錢
 - 七 意匠法施行細則第六條ノ規定ニ依ル請求 每一件 金五十錢
 - 八 實用新案登錄證再下付ノ請求 每一件 金一圓
 - 九 實用新案登錄證差出免除ノ請求 每一件 金一圓
 - 十 實用新案權存續期間滿了前一月以内ニ於テ爲ス實用新案權存續期間延長ノ請求 每一件 金一圓

- 十一 實用新案法施行規則第六條ノ規定ニ依ル出願變更ノ請求 每一件 金一圓
 - 十二 商標登錄證再下付ノ請求 每一件 金一圓五十錢
 - 十三 商標登錄證差出免除ノ請求 每一件 金一圓五十錢
 - 十四 商標權存續期間滿了前三月以内ニ於テ爲ス商標權存續期間更新ノ請求 每一件 金一圓
 - 十五 博覽會又ハ共進會ノ出品ニ關スル届出 每一件 金一圓
 - 十六 期日又ハ特許法、意匠法、商標法又ハ實用新案法ニ定アル期間以外ノ期間變更ノ請求 每一件 金五十錢
 - 十七 雜形又ハ見本閱覽ノ請求 每一件 金十錢
 - 第二條 前條ノ規定ハ國ノ請求又ハ届出ニ付之ヲ適用セス
 - 第三條 第一條第五號、第六號、第十二號乃至第十五號ニ規定スル手数料ハ同一ノ物品ニ應用スル互ニ相類似スル意匠及聯合商標ニ在リテハ各其ノ半額トス
 - 第四條 手数料ハ收入印紙ヲ請求書又ハ届書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ
- 附 則
- 第五條 本令ハ特許法施行細則、意匠法施行細則、商標法施行細則及實用新案法施行規則施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○明細書、圖面、雛形及見本作製方標準

明治四十二年十月二十六日
農商務省告示第四百二十五號

- 第一 特許出願ニ關スル明細書ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ
明細書ハ美濃紙ニツ折ニシテ凡ソ其ノ上部曲尺一寸、下部八分、左二分、綴料一寸ヲ餘シ楷書又ハ行書ヲ以テ十二行二十四字詰ニ認ムヘシ
- 第二 明細書中圖面ト對照シテ説明スルモノアルトキハ其ノ指示スヘキ部分ニ適當ナル名稱及符號ヲ附スヘシ
- 第三 特許出願又ハ實用新案登録出願ニ關スル圖面ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ
圖面ハ強靱ニシテ平滑ナル白紙若ハ覆^{トレシシタ}布ヲ用キ凡ソ其ノ上部曲尺九分、下部七分、左二分、右一寸八分ヲ餘シ堅曲尺七寸五分、横四寸五分以内ノ面内ニ濃墨ニテ鮮明ニ記載スヘシ但シ特ニ細密ヲ要スルモノハ堅又ハ横ノ長サヲ二倍ト爲スコトヲ得
- 第四 圖面ハ着色スルコトヲ得ス
- 第五 圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ番號ヲ附シ又一部分ニシテ數圖ニ互ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用ユヘシ但シ番號及符號ハ濃墨ニテ明瞭ニ記スヘシ
- 第六 符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサルトキハ其ノ部分ヨリ少シク離シテ之ヲ記シ點線又ハ細線ヲ以テ其ノ部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル上ニハ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得ザルトキハ其ノ部分ニ限リ陰ヲ施サスシテ符號ヲ記スヘシ
- 第七 截斷面ヲ現ハスニハ線間凡ソ曲尺三厘ヲ離レタル平行線ヲ斜ニ引クヘシ又截斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ヲ異ニシタル斜線ヲ用ユヘシ
- 第八 凹凸ノ部分ヲ明瞭ナラシムル爲圖面ニ陰ヲ施ス必要アルトキハ線ヲ用キテ簡明ニ畫クヘシ射影ハ成ルヘク施スヘカラス

- 第九 圖面ノ各葉ニハ出願人署名捺印スヘシ
- 第十 意匠登録ノ出願ニ關スル圖面ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ
圖面ハ強靱ナル白紙若ハ覆^{トレシシタ}布ヲ用キ上部曲尺六分、下部四分、左二分、右一寸四分ヲ餘シ堅曲尺八寸、横四寸八分ノ面内ニ之ヲ認ムヘシ
- 第十一 寫真ヲ紙面ニ貼附シタルモノヲ差出シ圖面ノ差出ニ代ユル場合ニ於テハ前號ノ例ニ準シ之ヲ貼附スヘシ
- 第十二 雛形又ハ見本ヲ紙面ニ貼附シタルモノヲ差出シ圖面ノ差出ニ代ユル場合ニ於テハ紙面ノ上部曲尺六分、下部四分、左二分、右一寸四分ヲ餘シ堅曲尺九寸七分以内横六寸以内ノ面内ニ其ノ雛形又ハ見本ヲ貼附スヘシ
- 第十三 特許及實用新案ニ關シテ差出スヘキ雛形又ハ見本ハ堅牢ナル材料ヲ用キ曲尺一尺立方以内ニ於テ之ヲ作ルヘシ但シ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニ在ラス
- 第十四 意匠ニ關シテ差出スヘキ雛形又ハ見本ハ曲尺二尺立方以内ニ於テ之ヲ作ルヘシ但シ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

* * * * *

○特許、意匠、商標ニ關シ書留郵便ヲ以テ書類提出方

明治三十二年七月一日
農商務省告示第六十二號

明治三十二年七月一日以後特許法、意匠法及ヒ商標法施行細則ノ定ムル所ニ依リ書留郵便ヲ以テ願書請求書、博覽會若クハ共進會ノ出品ニ關スル願書又ハ差出期間ノ定メアル書類ヲ差出ストキハ其特許、意匠、商標ニ關シ書留郵便ヲ以テ書類提出方

公報及明細書ノ發行時期、定價及賣捌人ニ關スル件

百八十八

封筒ノ表面ニ「特許(意匠又ハ商標)ニ關スル書類」ト朱書スヘシ

○公報及明細書ノ發行時期、定價及賣捌人ニ關スル件

明治四十二年十一月一日
農商務省告示第四四六號

明治四十二年十一月一日以後特許局ノ發行ニ係ル印刷物ノ發行時期、定價及賣捌人左ノ通相定ム

- 一 特許公報、特許發明明細書及商標公報ハ毎週一回、實用新案公報ハ毎週二回定期ニ之ヲ發行ス但シ必要ト認ムルトキハ臨時發行ヲ爲スコトアルヘシ
- 二 前項ノ印刷物ハ下ニ定ムル定價ヲ以テ之ヲ發賣ス

特許公報 一部ニ付

定價金 十 錢

特許發明明細書 二特許發明以上ノ分一部ニ付

定價金 七十五 錢

商標公報 二特許發明毎ノ分一部ニ付

定價金 五 錢

商標公報 二類別以上ノ分一部ニ付

定價金 十五 錢

實用新案公報 二類別毎ノ分一枚ニ付

定價金 一 錢

實用新案公報 二登錄實用新案以上ノ分一部ニ付

定價金 二十五 錢

二登錄實用新案毎ノ分一部ニ付

定價金 二 錢

三 第一項ノ印刷物賣捌人ハ東京市京橋區山下町一番地社團法人工業所有權保護協會トス

○特許法、意匠法及商標法ヲ臺灣ニ施行スル件

明治三十二年六月二十一日
勅令第二百九十號

特許法、意匠法及商標法ヲ明治三十二年七月一日ヨリ臺灣ニ施行ス

○實用新案法ヲ臺灣ニ施行スル件

明治三十八年六月三十日
勅令第四百九十號

實用新案法ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

附 則

本令ハ明治三十八年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○特許辨理士令

明治四十二年十月二十三日
勅令第三百號

沿革略記

明治三十二年六月九日勅令第二百三十五號ヲ以テ特許代理業者登錄規則公布◎明治三十九年九月二十七日勅令第二百六十四號ヲ以テ同規則中改正◎明治四十二年十月二十三日勅令第三百號ヲ以テ本令ヲ公布シ同年十一月一日ヨリ實施

第一條 帝國内ニ住所ヲ有スル成年以上ノ能力者ニシテ特許辨理士試験ニ合格シタル者ハ特許辨理士タル資格ヲ有ス

特許辨理士試験ニ關スル事項ハ主務大臣之ヲ定ム

第二條 左ニ掲クル者ハ試験ヲ要セスシテ特許辨理士タル資格ヲ有ス

- 一 辯護士タル資格ヲ有スル者

特許辨理士令

百八十九

- 二 文官高等試験又ハ判事檢事登用試験ニ合格シタル者
- 三 一年以上特許局若ハ統監府特許局ノ高等文官タリシ者又ハ二年以上特許局審査官補若ハ統監府特許局審査官補タリシ者
- 第三條 左ニ掲クル者ハ特許辨理士試験委員ノ詮衡ニ依リ試験ヲ要セスシテ特許辨理士タル資格ヲ有ス
 - 一 學位ヲ有スル者
 - 二 帝國大學分科大學又ハ之ト學科程度同等以上ト認ムル内外國ノ學校ニ於テ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者
- 第四條 左ニ掲クル者ハ特許辨理士タルコトヲ得ス
 - 一 特許法第九十二條、第九十三條、第九十七條、憲匠法第二十四條、第二十五條、第二十九條、商標法第二十三條、第二十四條、第二十八條又ハ實用新案法第二十二條、第二十三條、第二十七條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者但シ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
 - 二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者但シ六年未滿ノ懲役若ハ禁錮ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ若ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ三年ヲ經過シタル者ハ此ノ限ニ在ラス
 - 三 破産若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者
 - 四 業務停止ノ期間中業務ヲ廢止シ未タ其ノ期間ノ經過セサル者又ハ業務禁止ノ處分アリタル日ヨリ三年ヲ經過セザ者

- 第五條 特許辨理士タラムトスル者ハ特許辨理士登錄簿ニ登錄ヲ受クヘシ
前項ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ住所、氏名及事務所ヲ記載シタル請求書ニ履歷書及登錄ニ必要ナル資格ヲ證スル書面ヲ添附シ之ヲ特許局長ニ請求スヘシ
- 第六條 特許辨理士ノ登錄ヲ受ケムトスル者ハ手数料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ
前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ請求書ニ貼附シ之ヲ納ムヘシ
- 第七條 特許辨理士ノ登錄ヲ爲シタルトキ又ハ其ノ登錄ヲ拒否シタルトキハ特許局長ハ之ヲ請求人ニ通知スヘシ
- 第八條 特許辨理士ノ登錄ノ拒否ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得
(參照)
訴願法 (特許法參照法規第四十二頁所載)
- 第九條 特許局長ハ特許辨理士登錄簿ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 特許辨理士ノ氏名、住所
 - 二 事務所
 - 三 登錄ノ年月日
 - 四 懲戒
- 第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ特許局長ハ特許辨理士ノ登錄ヲ抹消スヘシ
 - 一 特許辨理士死亡シ若ハ業務ヲ廢止シタルトキ又ハ業務ヲ禁止セラレタルトキ
 - 二 特許辨理士タルノ資格ヲ具ヘサルカ又ハ具ヘサルニ至リタルトキ前項第二號ノ事由ニ依リ登錄ヲ抹消セムトスルトキハ特許辨理士試験委員ノ議ヲ經ヘシ
- 第十一條 前條第一項第二號ノ事由ニ依リ登錄ヲ抹消シタルトキハ特許局長ハ之ヲ特許辨理士ニ通知スルコトヲ得

知スヘシ

第十二條 第十條第一項第二號ノ事由ニ依ル登録ノ抹消ニ對シ不服アル者ハ訴願ヲ提起スルコトヲ得

(参照)

訴願法 (特許法參照法規第四十二頁所載)

第十三條 特許辨理士登録簿ノ登録又ハ其ノ抹消若ハ回復ハ官報、特許公報、商標公報及實用新案公報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第十四條 第九條第一號若ハ第二號ノ事項ニ變更アリタルトキ又ハ業務ヲ廢止シタルトキハ特許辨理士ハ遲滞ナク之ヲ特許局長ニ届出ツヘシ

特許辨理士死亡シタルトキハ其ノ相續人又ハ親族ヨリ遲滞ナク之ヲ特許局長ニ届出ツヘシ

第十五條 特許辨理士ハ左ニ掲クル事件ニ付其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

- 一 相手方ノ代理人トシテ取扱ヒタル事件
- 二 特許局ニ在職中取扱ヒタル事件

第十六條 特許辨理士組合ヲ設ケタルトキハ組合同規約ヲ定メテ特許局長ノ認可ヲ受クヘシ組合同規約ヲ變更シタルトキ亦同シ

特許辨理士組合ヲ解散シタルトキハ特許局長ニ届出ツヘシ

第十七條 特許辨理士ニシテ犯罪又ハ其ノ業務ニ關シ不正ノ行爲者ハ甚シキ怠慢アリタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 業務ノ禁止
- 二 一年以内業務ノ停止

附 則

本令ハ特許法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特許代理業者登録規則ハ之ヲ廢止ス

舊特許法第四十五條、第四十七條、舊意匠法第十七條、第十九條、舊商標法第十六條、第十七條、舊實用新案法第四十六條、第四十八條又ハ特許代理業者登録規則第十五條ノ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ三年ヲ經過セサルトキハ特許辨理士タルコトヲ得ス

特許代理業者登録規則ニ依ル特許代理業者名簿ハ本令ニ依ル特許辨理士登録簿ト看做ス

(参照)

舊特許法第四十五條 他人ノ特許品ヲ偽造シタル者又ハ情ヲ知リテ偽造特許品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者又ハ他人ノ特許品

法ヲ竊用シタル者又ハ情ヲ知リ其ノ竊用シテ製造シタル物品ヲ使用若ハ販賣シタル者ハ十五日以上三年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ特許ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ輸入シタル物品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

舊特許法第四十七條 詐偽ノ所爲ヲ以テ特許ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知リ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許ヲ受ケサル物品ヲ販賣スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ特許品タルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

舊意匠法第十七條 他人ノ登録意匠ヲ模擬シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ模擬シタル物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ登録意匠ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

特許辨理士令

舊商標法第十九條 詐偽ノ所爲ヲ以テ意匠ノ登録ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登録標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登録ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ヲ販賣スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ其ノ意匠ノ登録ヲ受ケタルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

舊商標法第十六條 他人ノ登録商標ナルコトヲ知り其ノ承諾ヲ經スシテ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ製造シ之ヲ交付若ハ販賣シタル者又ハ他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同商品ニ使用シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ登録商標ヲ有スル容器、包装等ナルコトヲ知り之ヲ同商品ニ使用シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者又ハ他人ノ登録商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ其ノ商品販賣ノ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ

舊商標法第十七條 詐偽ノ所爲ヲ以テ商標ノ登録ヲ受ケタル者又ハ登録ヲ受ケサル商標ニ登録標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

登録ヲ受ケスシテ登録標記又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ付シタル商標ヲ其ノ商品販賣ノ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ

舊實用新案法第四十六條 實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ヲ偽造、模造シ又ハ偽造品、模造品ヲ販賣、擴布若ハ使用シタル者ハ十五日以上二年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

實用新案ノ登録ヲ受ケタル物品ト同一又ハ類似ノモノナルコトヲ知り之ヲ外國ヨリ輸入シタル者ハ罰前項ニ同シ

本條ノ犯罪ハ實用新案權者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

舊實用新案法第四十八條 詐偽ノ所爲ヲ以テ實用新案ノ登録ヲ受ケタル者又ハ實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品又ハ其包裝上ニ實用新案登録ノ標記ヲ附シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知りテ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

實用新案ノ登録ヲ受ケサル物品ヲ販賣又ハ擴布スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ實用新案登録品タルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

特許代理業者登録規則第十五條 登録ヲ受ケスシテ特許代理業ヲ營ミ若ハ特許代理業者ト公稱シタル者又ハ詐偽ノ所爲ヲ以テ登録ヲ受ケタル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

○特許辦理士試驗規則

明治四十二年十月二十六日
農商務省令第五十號

沿革略記

明治三十二年十一月四日農商務省令第二十九號ヲ以テ特許代理業者試驗規則公布○明治三十九年九月十七日農商務省令第二十六號ヲ以テ同規則中改正○明治四十二年十月二十六日農商務省令第五十號ヲ以テ本則ヲ公布シ同年十一月一日ヨリ實施

- 第一條 特許辦理士試驗ハ特許局ニ於テ特許辦理士試驗委員之ヲ行フ
- 第二條 試驗委員長及試驗委員ハ特許局高等官中ヨリ主務大臣之ヲ命ス
- 第三條 試驗委員長ハ委員ヲ監督シ試驗ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス
- 第四條 試驗ノ期日ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ
- 第五條 特許辦理士令第四條ニ該當スル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス
- 第六條 特許辦理士試驗ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ニ依ル願書ニ第二號書式ニ依ル履歷書ヲ添附シ之ヲ試驗委員長ニ差出スヘシ
- 第七條 特許辦理士試驗ヲ受ケムトスル者ハ試驗手数料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

特許辦理士試驗規則

前項ノ手数料ハ收入印紙ヲ願書ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ
納付シタル手数料ハ願書ヲ取下ケ又ハ試驗ヲ受ケサルトキト雖モ之ヲ還付セス

第八條 特許辦理士試驗ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル法令並條約類
- 二 民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法及國際私法
- 三 數學(代數、幾何、三角術)、物理學及化學

特許辦理士試驗委員ハ前項第一號及第二號ノ科目又ハ第一號及第三號ノ科目ニ限リ試驗ヲ行フコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ第四條ノ公告中ニ其ノ旨ヲ記載スヘシ

第一項第二號及第三號ノ科目ハ前項ノ場合ヲ除クノ外試驗ヲ受ケムトスル者ニ於テ其ノ一ヲ選擇スルコトヲ得

第九條 特許辦理士試驗ハ筆記トス

試驗委員必要ト認ムルトキハ筆記試驗ニ合格シタル者ニ對シテ口述試驗ヲ行フコトヲ得

第十條 不正ノ方法ニ依リ試驗ニ合格シタルトキハ其ノ合格ハ無効トス

第十一條 試驗合格者ヲ定ムル方法ハ試驗委員ノ議定スル所ニ依ル

第十二條 試驗合格者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第十三條 試驗合格者ニハ合格證書ヲ授與ス

附 則

第十四條 本則ハ特許辦理士令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

特許代理業者試驗規則ハ之ヲ廢止ス

(書 式)

第一號書式

試驗願書 (用紙美濃紙)

族 籍

氏

名

生 年 月 日

現住所

氏

名 印

年 月 日

特許辦理士試驗委員長氏名殿

第二號書式

履 歷 書 (用紙美濃紙)

族 籍

氏

名

生 年 月 日

學 事

一 何年何月ヨリ何地何某ニ就ギ又ハ何學校ニ於テ何學ヲ修メ又ハ何學科卒業

一 何年何月何々ノ試驗ヲ受ケ及第ス

其ノ證書寫別紙ノ如シ

職 業

一 何年何月何官職拜命或ハ何業ニ従事、現在何々

賞 罰

一 何々

特許辦理士試驗規則

右ノ通相違無之候也

現住所

氏

名印

年月日

* * * * *

○特許辦理士組合規則

明治四十二年十月二十六日
農商務省令第五十一號

沿革略記

明治三十七年四月二十一日農商務省令第四號ヲ以テ特許代理業者組合規則公布◎明治四十二年十月二十
六日農商務省令第五十一號ヲ以テ本則ヲ公布シ同年十一月一日ヨリ實施

第一條 本則ニ於テ特許辦理士組合ト稱スルハ特許辦理士令第十六條ノ組合ヲ云フ

第二條 特許辦理士組合ハ組合員ノ風紀ヲ保持シ共同ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的トス

特許辦理士組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 特許辦理士組合ハ五十名以上ニ非サレハ之ヲ設立スルコトヲ得ス

第四條 特許辦理士組合ニハ左ノ役員ヲ置クヘシ

一 組合長 一名

一 副組合長 一名若ハ二名

前項ノ外規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ役員ヲ置クコトヲ得

役員ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第五條 組合長ハ組合ノ事務ヲ掌理シ組合ヲ代表ス

副組合長ハ組合長ヲ輔佐シ組合長故障アルトキハ之ヲ代理ス

副組合長ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合長ノ擔任スル事務ノ一部ヲ分掌スルコトヲ得

第六條 組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 目的

二 名稱

三 事務所

四 組合員ノ資格及加入脱退ニ關スル規定

五 役員ノ資格、權限、任期及其ノ選任並解任ニ關スル規定

六 會議ニ關スル規定

七 會計ニ關スル規定

八 風紀保持及違約者ノ處分ニ關スル規定

九 規約變更ニ關スル規定

十 解散ニ關スル規定

第七條 主務大臣又ハ特許局長ノ諮問アルトキハ特許辦理士組合ハ之ニ答申スヘシ

第八條 特許辦理士組合ハ特許局ノ主管事務若ハ特許辦理士ノ業務上ノ利害ニ關シ主務大臣又ハ特

許局長ニ建議スルコトヲ得

第九條 組合長ハ左ニ掲クル事項ヲ遲滯ナク主務大臣ニ報告スヘシ

一 組合員ノ加入及脱退

二 役員ノ選任及解任

三 違約者ノ處分

特許辦理士組合規則

四 其ノ他主務大臣ニ於テ隨時報告ヲ求ムル事項
附 則

第十條 本則ハ特許辨理士令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
特許代理業者組合規則ハ之ヲ廢止ス

韓國及關東州ニ關スル法令

四 其ノ他主務大臣ニ於テ隨時報告ヲ求ムル事項

附 則

第十條 本則ハ特許辦理士令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
特許代理業者組合規則ハ之ヲ廢止ス

韓國及關東州ニ關スル法令

○韓國特許令

明治四十二年十月二十三日
勅令第三百四號

沿革略記

明治四十一年八月十二日勅令第九十六號ヲ以テ舊韓國特許令ヲ公布シ同年八月十六日ヨリ實施○明治
四十二年十月二十三日勅令第三百四號ヲ以テ本令ヲ公布シ同年十一月一日ヨリ實施

第一條 韓國ニ於ケル特許ニ關シテハ特許法ニ依ル但シ同法中帝國トアルハ韓國ニ、外國トアルハ
日本國及韓國以外ノ國ニ、特許局トアルハ統監府特許局ニ、區裁判所トアルハ統監府區裁判所ニ、
大審院トアルハ統監府高等法院ニ、通常裁判所トアルハ統監府裁判所ニ該當ス

第二條 特許法第八條ノ政府ハ日本國ノ政府又ハ韓國ノ政府ニ、同法第十二條及第十八條ノ帝國ハ
日本國又ハ韓國ニ該當ス但シ同法第十八條ノ場合ニ於ケル第十二條ノ代理人ハ韓國内ニ於ケル代
理人ニ該當ス

第三條 特許法第三十條第二項ノ規定ニ依ル特許權存續期間ノ延長ニ關シテハ明治四十二年勅令第
二百九十八號ニ依ル但シ同令中主務大臣トアルハ統監ニ、特許局長トアルハ統監府特許局長ニ該
當ス

第四條 本令ハ日韓兩國ノ臣民ニ對シ發明ニ付同様ノ保護ヲ與ヘ且韓國ニ於テ發明ノ保護ニ關シ治
外法權ヲ行使セザル國ノ臣民及人民ニモ之ヲ適用ス

附 則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス
舊令ニ依リ受ケタル特許ハ本令ニ依リ受ケタルモノト看做ス但シ舊令第四條及第五條ニ依ル特許ニ
付テハ舊令第四條第一項但書、第二項及第五條但書ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

(參照)

舊韓國特許令第四條 本令施行前日本國臣民、韓國臣民及米國人民カ日本國ニ於テ受ケタル特許ハ本令ニ依リ韓國ニ於テ特許ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ特許ノ期間ハ日本國ニ於ケル其ノ特許ノ期間ニ從フ

前項ノ特許證主ハ本令施行ノ際現ニ韓國ニ於テ該發明ニ係ル物品又ハ方法ヲ用ウル者及ヒ其ノ承繼人ニ對抗スルコトヲ得

舊韓國特許令第五條 本令施行前米國ニ於テ特許ヲ受ケタル日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民ニシテ其ノ發明ニ付本令施行ノ日ヨリ一年内ニ統監府特許局ニ特許ヲ出願シタル場合ニ於テハ無料ニテ特許ヲ受ケルコトヲ得但シ其ノ特許ノ期間ハ米國ニ於ケル其ノ特許ノ期間ニ從フ

○韓國特許令施行規則

明治四十二年十一月二日 統監府令第五十六號

第一條 韓國特許令ノ施行ニ關シテハ特許法施行細則ニ依ル但シ同則中特許局トアルハ統監府特許局ニ、外國人トアルハ日本國及韓國以外ノ國ノ臣民又ハ人民ニ、外國法人トアルハ日本國及韓國以外ノ國ノ法人ニ、遞信省令トアルハ統監府令ニ、官報トアルハ統監府公報ニ、大審院トアルハ統監府高等法院ニ該當ス

第二條 軍事上祕密ヲ要スル發明ノ特許ニ付テハ明治四十二年勅令第二百九十九號ニ依ル但シ同令中特許局長トアルハ統監府特許局長ニ該當ス

第三條 特許ノ登錄ニ關シテハ特許登錄令及特許登錄令施行規則ニ依ル但シ特許登錄令中主務大臣トアルハ統監ニ、區裁判所トアルハ統監府區裁判所ニ、裁判所トアルハ統監府裁判所ニ該當ス

第一條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四條 特許ニ關スル登録稅及手數料ニ付テハ登録稅法、明治四十二年勅令第三百三號及同年農商

務省令第五十二號ニ依ル

附 則

本令ハ韓國特許令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

舊韓國特許令第四條ノ特許ニ付テハ特許法施行細則、特許登錄令及特許登錄令施行規則中特許證及其ノ複本ニ關スル規定ヲ適用セス

(參照)

舊韓國特許令第四條 本令施行前日本國臣民、韓國臣民及米國人民カ日本國ニ於テ受ケタル特許ハ本令ニ依リ韓國ニ於テ特許ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ特許ノ期間ハ日本國ニ於ケル其ノ特許ノ期間ニ從フ

前項ノ特許證主ハ本令施行ノ際現ニ韓國ニ於テ該發明ニ係ル物品又ハ方法ヲ用ウル者及ヒ其ノ承繼人ニ對抗スルコトヲ得

○韓國意匠令

明治四十二年十月二十三日 勅令第三百五號

沿革略記

明治四十一年八月十二日勅令第九十七號ヲ以テ舊韓國意匠令ヲ公布シ同年八月十六日ヨリ實施◎明治四十二年十月二十三日勅令第三百五號ヲ以テ本令ヲ公布シ同年十一月一日ヨリ實施

第一條 韓國ニ於ケル意匠ニ關シテハ意匠法ニ依ル

第二條 意匠法第四條ノ菊花御紋章ハ菊花御紋章又ハ李花御紋章ニ該當ス

第三條 韓國特許令第一條但書、第二條及第四條ノ規定ハ第一條ノ場合ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

韓國特許令施行規則 韓國意匠令

舊令ニ依リ受ケタル意匠ノ登録ハ本令ニ依リ受ケタルモノト看做ス但シ舊令第五條及第六條ニ依ル登録意匠ニ付テハ舊令第五條第一項但書、第二項及第六條但書ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

(參照)

舊韓國意匠令第五條 本令施行前日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民カ日本國ニ於テ登録ヲ受ケタル意匠ハ本令ニ依リ韓國ニ於テ登録セラレタルモノト看做ス但シ其ノ意匠專用ノ期間ハ日本國ニ於ケル其ノ意匠專用ノ期間ニ從フ
前項ノ登録意匠主ハ本令施行ノ際現ニ韓國ニ於テ該意匠ヲ用ウル者及其ノ承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス
舊韓國意匠令第六條 本令施行前米國ニ於テ意匠ノ登録ヲ受ケタル日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民ニシテ其ノ意匠ニ付本令施行ノ日ヨリ一年內ニ統監府特許局ニ意匠ノ登録ヲ出願シタル場合ニ於テハ無料ニテ登録ヲ受ケルコトヲ得但シ其ノ意匠専用ノ期間ハ米國ニ於ケル其ノ意匠専用ノ期間ニ從フ

○韓國意匠令施行規則

明治四十二年十一月一日
統監府令第五十七號

- 第一條 韓國意匠令ノ施行ニ關シテハ意匠法施行細則ニ依ル
- 第二條 意匠ノ登録ニ關シテハ明治四十二年勅令第二百九十五號及同年農商務省令第四十七號ニ依ル
- 第三條 韓國特許令施行規則第一條但書、第三條第一項但書及第四條ノ規定ハ意匠ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ韓國意匠令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

舊韓國意匠令第五條ノ意匠ニ付テハ韓國特許令施行規則附則第二項ノ規定ヲ準用ス
(參照)

舊韓國意匠令第五條 本令施行前日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民カ日本國ニ於テ登録ヲ受ケタル意匠ハ本令ニ依リ韓國ニ於テ登録セラレタルモノト看做ス但シ其ノ意匠専用ノ期間ハ日本國ニ於ケル其ノ意匠専用ノ期間ニ從フ
前項ノ登録意匠主ハ本令施行ノ際現ニ韓國ニ於テ該意匠ヲ用ウル者及其ノ承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス

* * * * *

○韓國商標令

明治四十二年十月二十三日
勅令第三百六號

沿革略記

明治四十一年八月十二日勅令第九十八號ヲ以テ舊韓國商標令ヲ公布シ同年八月十六日ヨリ實施○明治四十二年十月二十三日勅令第三百六號ヲ以テ本令ヲ公布シ同年十一月一日ヨリ實施

- 第一條 韓國ニ於ケル商標ニ關シテハ商標法ニ依ル
- 第二條 商標法第二條ノ菊花御紋章ハ菊花御紋章又ハ李花御紋章ニ、國旗、軍旗、勳章、褒章、記章ハ日本國又ハ韓國ノ國旗、軍旗、勳章、褒章、記章ニ、政府ハ日本國ノ政府又ハ韓國ノ政府ニ該當ス
- 第三條 韓國特許令第一條但書、第二條及第四條ノ規定ハ第一條ノ場合ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

舊令ニ依リ受ケタル商標ノ登録ハ本令ニ依リ受ケタルモノト看做ス但シ舊令第五條ニ依ル登録商標ニ付テハ舊令第五條但書ノ規定ハ仍其ノ效力ヲ有ス

(參照)

舊韓國商標令第五條 本令施行前日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民カ日本國ニ於テ登録ヲ受ケタル商標ハ本令ニ依リ韓國ニ於テ登録セラレタルモノト看做ス但シ其ノ商標専用ノ期間ハ日本國ニ於ケル其ノ商標専用ノ期間ニ從フ

○韓國商標令施行規則

明治四十二年十一月一日
統監府令第五十八號

第一條 韓國商標令ノ施行ニ關シテハ商標法施行細則ニ依ル但シ同則中外國トアルハ日本國及韓國以外ノ國ニ該當ス

第二條 商標ノ登録ニ關シテハ明治四十二年勅令第二百九十六號及同年農商務省令第四十八號ニ依ル

第三條 韓國特許令施行規則第一條但書、第三條第一項但書及第四條ノ規定ハ商標ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ韓國商標令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

舊韓國商標令第五條ノ商標ニ付テハ韓國特許令施行規則附則第二項ノ規定ヲ準用ス

(參照)

舊韓國商標令第五條 本令施行前日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民カ日本國ニ於テ登録ヲ受ケタル商標ハ本令ニ依リ韓國ニ於テ登録セラレタルモノト看做ス但シ其ノ商標專用ノ期間ハ日本國ニ於ケル其ノ商標專用ノ期間ニ從フ

○韓國實用新案令

明治四十二年十月二十三日
勅令第三百七號

第一條 韓國ニ於ケル實用新案ニ關シテハ實用新案法ニ依ル

第二條 實用新案法第四條ノ菊花御紋章ハ菊花御紋章又ハ李花御紋章ニ該當ス

第三條 韓國特許令第一條但書、第二條及第四條ノ規定ハ第一條ノ場合ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ明治四十二年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民カ日本國ニ於テ受ケタル實用新案ノ登録ハ本令ニ依リ受ケタルモノト看做ス但シ其ノ實用新案權ノ存續期間ハ日本國ニ於ケル存續期間ニ從フ

前項ノ實用新案權者ハ本令施行ノ際現ニ韓國ニ於テ該實用新案ヲ用ウル者及其ノ承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス

本令施行前米國ニ於テ特許又ハ意匠ノ登録ヲ受ケタル日本國臣民、韓國臣民又ハ米國人民ニシテ其ノ發明又ハ意匠ニ付本令施行ノ日ヨリ一年內ニ統監府特許局ニ實用新案ノ登録ヲ出願スル場合ニ於テハ無料ニテ登録ヲ受クルコトヲ得

○韓國實用新案令施行規則

明治四十二年十一月一日
統監府令第五十九號

第一條 韓國實用新案令ノ施行ニ關シテハ實用新案法施行規則ニ依ル

第二條 實用新案ノ登録ニ關シテハ明治四十二年勅令第二百九十七號及同年農商務省令第四十九號ニ依ル

第三條 韓國特許令施行規則第一條但書、第二條、第三條第一項但書及第四條ノ規定ハ實用新案ニ關シ之ヲ準用ス

附 則

本令ハ韓國實用新案令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

韓國實用新案令 韓國實用新案令施行規則

韓國實用新案令附則第四項ニ依ル出願ニハ其ノ發明又ハ意匠カ米國ニ於テ特許又ハ意匠ノ登録ヲ受ケタルモノナルコト及出願人カ其ノ特許權又ハ意匠權ヲ有スルコトヲ證明スヘキ書面ヲ添附スヘシ
前項ノ出願ニ關シテハ手数料ヲ徵收セス

韓國實用新案令附則第四項ノ實用新案ニ付テハ韓國特許令施行規則附則第二項ノ規定ヲ準用ス

○韓國ニ於ケル明細書、圖面、雛形及見本作製方標準

明治四十一年十一月一日
統監府告示第百十四號

沿革略記

明治四十一年八月二十七日統監府告示第百二十八號ヲ以テ明細書及圖面ノ作製方及書類ノ差出方ヲ公示ス
◎明治四十二年十一月一日日本告示ヲ以テ明治四十一年統監府告示第百二十八號ヲ改正ス

- 第一 特許出願ニ關スル明細書ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ
 - 一 明細書ハ美濃紙ニツ折ニシテ凡ソ其ノ上部曲尺一寸、下部八分、左二分、綴料一寸ヲ餘シ楷書又ハ行書ヲ以テ十二行二十四字詰ニ認ムヘシ
 - 二 明細書中圖面ト對照シテ説明スルモノアルトキハ其ノ指示スヘキ部分ニ適當ナル名稱及符號ヲ附スヘシ
- 第二 特許出願又ハ實用新案登録出願ニ關スル圖面ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ
 - 一 圖面ハ強靱ニシテ平滑ナル白紙若ハ覆寫布ヲ用キ凡ソ其ノ上部曲尺九分、下部七分、左二分、右一寸八分ヲ餘シ堅曲尺七寸五分、横四寸五分以内ノ面内ニ濃墨ニテ鮮明ニ記載スヘシ但シ特ニ細密ヲ要スルモノハ堅又ハ横ノ長サヲ二倍ト爲スコトヲ得

- 二 圖面ハ著色スルコトヲ得ス
 - 三 圖ノ離レタルモノハ一箇毎ニ番號ヲ附シ又一部分ニシテ數圖ニ互ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用フヘシ但シ番號及符號ハ濃墨ニテ明瞭ニ記スヘシ
 - 四 符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサルトキハ其ノ部分ヨリ少シク離シテ之ヲ記シ點線若ハ細線ヲ以テ其ノ部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル上ニハ符號ヲ記スヘカラス已ムヲ得サルトキハ其ノ部分ニ限リ陰ヲ施サスニテ符號ヲ記スヘシ
 - 五 截斷面ヲ現ハスニハ線間凡ソ曲尺三厘ヲ離レタル平行線ヲ斜ニ引クヘシ又截斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ヲ異ニシタル斜線ヲ用フヘシ
 - 六 凹凸ノ部分ヲ明瞭ナラシムル爲メ圖面ニ陰ヲ施ス必要アルトキハ線ヲ用キテ簡明ニ畫クヘシ射影ハ成ルヘク施スヘカラス
 - 七 圖面ノ各葉ニハ出願人署名捺印スヘシ
- 第三 意匠登録ノ出願ニ關スル圖面ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ作ルヘシ
- 一 圖面ハ強靱ナル白紙若ハ覆寫布ヲ用キ上部曲尺六分、下部四分、左二分、右一寸四分ヲ餘シ堅曲尺八寸、横四寸八分ノ面内ニ之ヲ認ムヘシ
 - 二 寫真ヲ紙面ニ貼附シタルモノヲ差出圖面ノ差出ニ代フル場合ニ於テハ前號ノ例ニ準シ之ヲ貼附スヘシ
 - 三 雛形又ハ見本ヲ紙面ニ貼附シタルモノヲ差出圖面ノ差出ニ代フル場合ニ於テハ紙面ノ上部曲尺六分、下部四分、左二分、右一寸四分ヲ餘シ堅曲尺九寸七分以内横六寸以内ノ面内ニ其ノ雛形又ハ見本ヲ貼附スヘシ

第四 特許及實用新案ニ關シテ差出スヘキ雛形又ハ見本ハ堅牢ナル材料ヲ用キ曲尺一尺立方以内ニ於テ之ヲ作ルヘシ但シ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

第五 意匠ニ關シテ差出スヘキ雛形又ハ見本ハ曲尺二尺立方以内ニ於テ之ヲ作ルヘシ但シ此ノ制限ニ從ヒ難キトキハ此ノ限ニ在ラス

○韓國特許辦理士令

明治四十二年十月二十三日
勅令第三百八號

沿革略記

明治四十一年八月十九日統監府令第三十號ヲ以テ韓國特許代理業者登録規則ヲ公布シ即日實施○明治四十二年十月二十三日勅令第三百八號ヲ以テ本令ヲ公布シ同年十一月一日ヨリ實施○明治四十二年十一月一日統監府令第六十一號ヲ以テ韓國辦理士令施行ノ日ヨリ韓國特許代理業者登録規則ヲ廢止ス

韓國ニ於ケル特許辦理士ニ關シテハ特許辦理士令ニ依ル但シ同令中帝國内トアルハ日本國內又ハ韓國内ニ、特許辦理士試験トアルハ同令第一條第二項ノ場合ヲ除クノ外特許辦理士試験又ハ韓國特許辦理士試験ニ、特許辦理士試験委員トアルハ韓國特許辦理士試験委員ニ、特許局長トアルハ統監府特許局長ニ、特許代理業者登録規則トアルハ韓國特許代理業者登録規則ニ、官報トアルハ統監府公報ニ該當ス

特許辦理士令第十五條第二項ノ特許局ハ特許局又ハ統監府特許局ニ、第十七條ノ主務大臣ハ統監ニ該當ス

附 則

韓國特許辦理士試験ニ關スル事項ハ統監之ヲ定ム

本令ハ韓國特許令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○韓國特許辦理士試験規則

明治四十二年十一月二日
統監府令第六十號

韓國ニ於ケル特許辦理士試験ニ關シテハ特許辦理士試験規則ニ依ル但シ同則中特許局トアルハ統監府特許局ニ、特許局高等官トアルハ統監府及統監府特許局高等官ニ、主務大臣トアルハ統監ニ、官報トアルハ統監府公報ニ該當ス

附 則

本令ハ韓國特許辦理士令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

* * * * *

○韓國ニ於ケル特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル審判、抗告

審判及出訴ニ關スル費用ノ件

明治四十二年十月二十三日
勅令第三百九號

韓國ニ於ケル特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル審判、抗告審判及出訴ノ費用ニ付テハ明治四十二年勅令第三百一號ニ依ル

附 則

韓國特許辦理士試験規則

韓國ニ於ケル特許、意匠、商標及實用新案ニ關スル審判、抗告審判及出訴ニ關スル費用ノ件

本令ハ韓國特許令、韓國意匠令、韓國商標令及韓國實用新案令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

* * * * *

○統監府特許局官制

明治四十一年八月十二日公布
勅令第二百二號

沿革略記

明治四十一年八月十二日勅令第二百二號ヲ以テ本令ヲ公布シ即日實施○明治四十二年十月二十三日勅令第三百十號ヲ以テ本令ノ通改正

第一條 統監府特許局ハ統監ノ管理ニ屬シ韓國ニ於ケル發明、意匠、商標、實用新案及著作權ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條 統監府特許局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長	專任	二人	奏任
技師	專任	五人	奏任
審査官	專任	五人	判任
審査官補	專任	五人	判任
屬手	專任	一人	判任
通譯	專任	一人	判任

局長ハ參與官ヲ以テ之ニ充ツ

第三條 局長ハ統監ノ指揮監督ヲ承ケ局務ヲ掌理ス

第四條 局長、事務官及技師ヲ以テ審判官トス

審判官ハ特許、實用新案、意匠及商標ニ關スル審判ヲ掌ル

第五條 審査官ハ局長ノ指揮ヲ承ケ特許、實用新案、意匠及商標ニ關スル審査ヲ掌ル

第六條 審査官補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ審査官ヲ助ケテ審査ニ從事ス

第七條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

第八條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第九條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ從事ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

* * * * *

○關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ保護ニ關スル件

明治四十一年八月十二日
勅令第二百一號

沿革略記

明治四十一年八月十二日勅令第二百一號ヲ以テ本令ヲ公布シ同年八月十六日ヨリ實施○明治四十二年十月二十三日勅令第三百十一號ヲ以テ本令ノ通改正

第一條 帝國臣民又ハ韓國臣民カ帝國ニ於テ享有スル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ效力ハ關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民及韓國臣民ニ及フモ

關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、商標權、實用新案權及著作權ノ保護ニ關スル件

關東州及帝國カ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ於ケル特許權、意匠權、
商標權、實用新案權及著作權ノ保護ニ關スル件

二百十四

ノトス

第二條 特許法、意匠法、商標法、實用新案法及著作權法中ノ罪ニ關スル規定ハ關東州及帝國カ治外
法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民及韓國臣民ニ對シ之ヲ適用ス

第三條 日韓兩國以外ノ國ノ臣民又ハ人民カ帝國ニ於テ享有スル工業所有權及著作權ニ付テハ其ノ
所屬國カ治外法權ヲ有スル外國ニ於テ日韓兩國ノ臣民ニ對シ工業所有權及著作權ノ保護ヲ與ヘ且
韓國ニ於テ工業所有權及著作權ノ保護ニ關シ治外法權ヲ行使セサル場合ニ限リ前二項ノ規定ヲ適
用ス

附 則

第四條 本令ハ明治四十一年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 本令施行ノ際本令ノ保護スル他人ノ商標又ハ之ニ類似スル商標ヲ不正ニ附シタル商品ヲ販
賣ノ爲所藏スル者ハ本令施行後六月内ニ其ノ商標ヲ除去若ハ抹消スルカ又ハ該商品ヲ清國市場ヨ
リ撤去スルコトヲ要ス

第六條 日本國臣民、韓國臣民及米國人民カ帝國又ハ米國內ニ於テ著作權ヲ享有セル著作物ヲ本令
施行前清國ニ於テ著作權者ノ承諾ナクシテ複製シタル者、翻譯シタル者若ハ興行シタル者又ハ復
製、翻譯、興行ニ著手シタル者ハ本令施行後一年間ハ之ヲ完成シテ發賣頒布シ又ハ興行スルコトヲ
得

工業所有權保護ニ關スル條約

ノトス

第二條 特許法、意匠法、商標法、實用新案法及著作權法中ノ罪ニ關スル規定ハ關東州及帝國領外
法權ヲ行使スルコトヲ得ル外國ニ在ル帝國臣民及韓國臣民ニ對シ之ヲ適用ス

第三條 日韓兩國以外ノ國ノ臣民又ハ人民ハ帝國ニ於テ享有スル工業所有權及著作權ニ付テハ其ノ
所屬國カ治外法權ヲ有スル外國ニ於テ日韓兩國ノ臣民ニ對シ工業所有權及著作權ノ保護ヲ與ヘ且
韓國ニ於テ工業所有權及著作權ノ保護ニ關シ治外法權ヲ行使セザル場合ニ限リ前二項ノ規定ヲ適
用ス

附 則

第四條 本令ハ明治四十一年八月十六日ヨリ之ヲ施行ス

第五條 本令施行ノ際本令ノ保護スル他人ノ商標又ハ之ニ類似スル商標ヲ不正ニ附シタル商品ヲ販
賣ノ爲所廢スル者ハ本令施行後六月内ニ其ノ商標ヲ除去若ハ抹消スルカ又ハ該商品ヲ清國市場ヨ
リ撤去スルコトヲ要ス

第六條 日本國臣民、韓國臣民及米國人民カ帝國又ハ米國內ニ於テ著作權ヲ享有セル著作物ヲ本令
施行前帝國ニ於テ著作權者ノ承諾ナクシテ複製シタル者、翻譯シタル者若ハ興行シタル者又ハ複
製、翻譯、興行ニ著手シタル者ハ本令施行後一年間ハ之ヲ完成シテ發賣願布シ又ハ興行スルコトヲ
得

工業所有權保護ニ關スル條約

○萬國工業所有權保護同盟條約

明治三十二年七月十三日公布
同年同月十五日ヨリ效力發生

沿革略記

明治三十二年七月十三日本條約及附屬議定書ヲ公布シ同年外務省告示第九號ニ依リ明治三十二年七月十五日ヨリ加入ノ效力發生ス◎明治三十五年八月十八日本條約及附屬議定書ヲ修正スル追加條約ヲ公布シ本條ノ修正シ明治三十五年九月十四日ヨリ其ノ效力發生ス

明治十六年(千八百八十三年)三月二十日佛蘭西國巴里ニ於テ白耳義國、伯刺西爾國、西班牙國、佛蘭西共和國、瓜地馬拉共和國、伊太利國、和蘭國、葡萄牙國、三薩瓦共和國、塞爾維亞國及瑞西國ノ全權委員カ各内國人ノ工業及商業ニ對シ完全ニシテ有效ナル保護ヲ保證シ且ツ發明者ノ權利及誠實ナル商業ノ取引ニ擔保ヲ與ヘムコトヲ欲シ締結シタル工業所有權ノ保護ニ關スル條約竝ニ其ノ議定書左ノ如シ

第一條 白耳義、伯刺西爾、西班牙、佛蘭西、瓜地馬拉、伊太利、和蘭、葡萄牙、三薩瓦、塞爾維亞及瑞西國ノ諸政府ハ工業所有權保護ノ爲メ茲ニ同盟ヲ組織ス

第二條 各締盟國ノ臣民或ハ人民ハ他ノ同盟國內ニ於テ發明特許、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標及商號ニ關シ其ノ國ノ法律カ内國人ニ對シ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ利益ヲ享有スヘシ故ニ該臣民或ハ人民ハ各國ノ法律カ内國人ヲシテ遵守セシムル所ノ手續及條件ヲ遵守スルニ於テハ内國人ト同一ノ保護ヲ受ケ其ノ權利ノ侵害ニ對シテモ亦同一ナル訴權ヲ有スヘシ

第三條 同盟ニ加入セサル國ノ臣民或ハ人民ニシテ同盟中ノ一國ノ版圖内ニ住所ヲ有シ或ハ現實且眞誠ナル工業的若ハ商業的營業所ヲ有スル者ハ締盟國ノ臣民或ハ人民ニ準スヘキモノトス

第四條 締盟國中ノ一國ニ於テ合式ニ發明ノ特許出願、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標ノ

登録出願ヲ爲シタル者ハ他ノ締盟國ニ於テ出願ヲ爲スニ方リ第三者ノ權利ヲ保留シテ下ニ定ムル期間ハ優先權ヲ有スヘシ

故ニ右期間満了前ニ他ノ締盟國ニ於テ爲シタル出願ハ其ノ中間ニ於テ遂行セラレタル事實殊ニ他ノ出願アリタルコト、其ノ發明ヲ公ニシ或ハ實施シタルコト、意匠或ハ雛形ノ模本ヲ發賣シタルコト若ハ標章(製造標或ハ商標)ヲ使用シタルコトニ因リ無効トナルコトナシ

上ニ記載セル優先權ノ期間ハ發明ノ特許ニ在リテハ十二箇月、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標ニ在リテハ四箇月トス

第四條ノ二 第二條及第三條ノ規定ニ據リ本條約ノ利益ヲ享受スル者カ各締盟國ニ出願シテ得タル特許ト同一ノ發明ニ對シ他ノ締盟國或ハ締盟國外ノ國ニ於テ得タル特許トハ互ニ獨立ノモノタルヘシ

前項ノ規定ハ其ノ實施ノ時ニ方リ存在スル特許ニ適用セララルヘシ
新ニ加入スル國アル場合ニ於テハ其ノ加入ノ時ニ方リ加入國又ハ締盟國ニ存在スル特許ニ付テモ亦同シ

第五條 特許證主カ他ノ同盟國ニ於テ製造シタル物品ヲ特許ヲ得タル國ニ輸入スルモ之カ爲ニ特許ノ效力ヲ失フコトナシ
然レトモ特許證主ハ其ノ特許品ヲ輸入スル國ノ法律ニ從ヒテ其ノ特許ヲ實施スヘキ義務アルモノトス

第六條 總テ本國ニ於テ合式ニ出願ヲ爲シタル製造標或ハ商標ハ他ノ同盟國ニ於テモ其ノ儘出願ヲ許容シ且ツ保護ヲ與フヘシ
出願人ノ主タル營業所ノ所在國ヲ以テ其ノ本國ト看做スヘシ

右ノ主タル營業所カ同盟國內ニ存在セサルトキハ出願人ノ屬スル國ヲ以テ本國ト看做スヘシ
製造標或ハ商標ノ登録ヲ出願シタル物件ニシテ風俗若ハ公安ニ害アルモノト認めラレタルトキハ其ノ出願ヲ拒絕スルコトヲ得ヘシ

第七條 製造標或ハ商標ヲ附スヘキ製産物ノ性質如何ハ如何ナル場合ニ於テモ標章出願ノ妨害トナルコトナシ

第八條 商號ハ製造標或ハ商標ノ一部ヲ爲スト否トニ拘ハラズ出願ヲ要スルコトナクシテ各同盟國內ニ於テ保護セララルヘシ

第九條 不正ナル製造標或ハ商標或ハ商號ヲ附ケタル製産物ハ其ノ標章或ハ商號カ法律上ノ保護ヲ受タヘキ同盟國內ニ輸入ノ際之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ

右ノ差押ハ檢事若ハ利害關係人ノ請求ニ因リ各同盟國ノ法律ニ從ヒ之ヲ執行スヘシ
法令ニ依リ輸入ノ際差押ヲ許サ、ル國ニ於テハ輸入禁止ヲ以テ輸入差押ニ代フルコトヲ得ヘシ

通過ノ場合ニ於テハ當該官廳ハ差押ヲ爲スノ義務ナキモノトス

第十條 前條ノ規定ハ製産地ノ表示トシテ虛偽ニ一定ノ地名ヲ附セシ總テノ製産物ニ適用スヘシ但此ノ表示ニ虛構ノ商號ヲ附加シ若ハ詐欺ノ意思ヲ以テ借用シタル商號ヲ附加シタルトキニ限ル

右製産物ノ生産、製造或ハ商業ニ從事スル生産者、製造者或ハ商人ニシテ産地トシテ詐稱セラレタル土地若ハ該地所在ノ地方ニ住居スル者ハ總テ之ヲ利害關係人ト看做ス

第十條ノ二 本條約ノ利益ヲ享受スル者(第二條、第三條)ハ同盟各國ニ於テ不正ノ競争ニ關シ其ノ内國人ニ附與スルト同様ノ保護ヲ享受スヘシ

第十一條 締盟國ハ互ニ締盟國中ノ一國ノ版圖内ニ開設セル官設或ハ官許ノ萬國博覽會ニ出品スル製産物ニ對シ各其ノ國ノ法令ニ遵ヒ特許的發明、工業的意匠或ハ雛形並製造標或ハ商標ニ假保護ヲ與フヘシ

第十二條 各締盟國ハ互ニ工業所有權ニ關スル特別ナル事務所ヲ開設シ又發明特許、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標ヲ公衆ニ知ラシムル爲メ中央陳列所ヲ設置スルコトヲ約諾ス

第十三條 「萬國工業所有權保護同盟事務局」ナル名稱ヲ附シテ一ノ萬國事務局ヲ設立スヘシ右事務局ハ瑞西聯邦中央政府ノ下ニ置カレ其ノ監督ヲ受ケテ事務ヲ處理スヘシ而シテ之ニ要スル費用ハ各締盟國政府ニ於テ之ヲ分擔スヘシ又右事務局ノ職制ハ同盟國協議ノ上之ヲ定ムヘシ

第十四條 本條約ハ同盟制度ヲ完全ナラシムヘキ改良ヲ加ヘムカ爲メ時々改正ヲ施スヘシ右ノ目的ヲ達スル爲メ前記締盟國ノ委員ハ逐次締盟國ノ一ニ會シテ會議ヲ開クヘシ

第十五條 各締盟國ハ本條約ノ規定ニ牴觸セサル限ハ各國間互ニ工業所有權ノ保護ニ關スル特殊ノ取極ヲ爲スノ權利ヲ保留スルモノトス

第十六條 本條約ニ加入セサル國ト雖モ其ノ請求ニ依リ加入スルコトヲ許スヘシ右ノ加入ハ外交上ノ手續ニ由リ瑞西聯邦政府ニ申込ムヘシ而シテ該政府ヨリ更ニ之ヲ他ノ締盟國ニ通知スヘシ新ニ加入スル國ハ當然本條約ノ全部ニ贊同シタルモノトシ本條約ニ規定スル一切ノ利益ヲ享受スヘシ而シテ該加入ハ瑞西政府カ他ノ締盟國ニ對シテ爲シタル通知ノ發送ヨリ一箇月ヲ經タル後ニ其ノ效果ヲ生スヘシ但加入國ニ於テ其ノ以後ノ日付ヲ指定シタルトキハ此ノ限ニアラス

第十七條 本條約ニ掲クル所ノ相互的契約ノ履行ハ之ヲ要スル限ハ締盟國中ニ就キ自國ノ憲法所定ノ手續及規定ヲ履行スルノ必要アルモノハ之ニ遵由スヘシ且ツ可成速ニ其ノ手續ヲ爲スノ義務アルモノトス

第十八條 本條約ハ批准交換後一箇月ヲ經テ實施セラルヘキモノトス而シテ本條約ハ無期限ニ有效タルヘク若シ之ヲ拋棄スルトキハ拋棄ノ日ヨリ一箇年ヲ經テ效力ヲ失フモノトス

右ノ拋棄ハ加入申込ヲ受理スルノ權アル政府ニ通知スヘシ拋棄ハ其ノ之ヲ爲シタル國ニ對シテノミ有效ナルモノニシテ他ノ締盟國間ニ於テハ依然本條約ヲ繼續スルモノトス

第十九條 本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ遅クモ一箇年以内ニ巴里ニ於テ交換スヘシ

議定書

第一 「工業所有權」ナル語ハ其ノ最モ廣キ意味ニ解スヘシ即チ純粹ナル工業的製産物ノミナラス農業的製産物(各種ノ葡萄酒、穀類)及商業上取引セラルル鑛産物(鐵、煤)ニモ亦之ヲ適用スルモノトス

第二 「發明特許」ナル名稱ノ中ニハ締盟國ノ國法ニ依リ許與サレタル諸種ノ工業的特許即チ輸入特許、改良特許ヲ包含ス

第三 本條約第二條末段ノ規定ハ何等ノ點ニ於テモ各締盟國ニ於ケル訴訟手續及裁判所ノ權限ニ關スル法律ヲ侵害セサルモノトス

第三ノ二 特許證主ハ當該國ニ於テ其ノ出願ノ日ヨリ少クモ三年ヲ經過シ且不實施ノ事由ヲ疏明セサル場合ノ外何レノ國ニ於テモ不作爲ノ事由ニ依リ失權スルコトナシ

第四 本條約第六條第一項ハ如何ナル製造標或ハ商標ト雖モ之ヲ組成スル所ノ徽章カ其ノ本國ノ法律ニ照シテ適法ニシテ且ツ本國ニ於テ合式ニ出願ヲ爲シタルモノニ係ルトキハ他ノ締盟國ニ於テハ假令其ノ徽章カ該國ノ法律ニ照シテ適法ナラサルモ之ヲ理由トシテ其ノ保護ヲ拒ムコトヲ得スト云フ意味ニ解釋スヘキモノトス但各締盟國ノ法律ハ標準ノ形ニノミ關スル此例外ヲ除キ及本條約中他ノ條項ノ規定ヲ保留シテ之ヲ適用スヘキモノトス

尙誤解ヲ避ケムカ爲メ公共ノ紋章及勳章ノ使用ハ本條約第六條末段ノ意味ニ隨ヒ公ノ秩序ニ背反スルモノト看做ヲ得ルコトヲ茲ニ約諾ス

第五 本條約第十二條ニ記載シタル工業所有權ニ關スル特別事務所ノ構成中ニハ可成各國ニ於テ定期刊行ノ公報ヲ刊行スヘキコトヲモ包含ス

第六 本條約第十三條ニ依リ設置サレタル萬國事務局ノ共同經費ハ如何ナル場合ニ於テモ毎年各締盟國ノ平均負擔額ヲシテ二千法ニ當ル總額ヲ超過セシムルコトヲ得ス

右ノ費用總額ニ對シ各國ノ釀出割合ヲ定ムル爲メ締盟國並ニ將來同盟ニ加入スヘキ國ヲ六等ニ區分シ各等ノ釀出スヘキ部數ノ比例ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一等 二十五部

第二等 二十部

第三等 十五部

第四等 十部

第五等 五部

第六等 三部

右ノ系數ニ各等ノ國數ヲ乘シテ得タル積ノ和ハ部ノ總數ヲ示シ之ヲ以テ費用總額ヲ除スレハ費用ノ部數ヲ得ルナリ

費用分擔ノ爲メ締盟國ヲ類別スルコト左ノ如シ

第一等 佛蘭西國 伊太利國

第二等 西班牙國

第三等

白耳義國 伯刺西爾國 葡萄牙國 瑞西國

第四等

和蘭國

第五等

塞爾維亞國 瓜地馬拉國

第六等

三薩瓦國

瑞西聯邦政府ハ萬國事務局ノ支出ヲ監督シ必要ナル立替ヲ爲シ且ツ毎年出納ヲ計算シテ他ノ締盟國政府ニ報告スヘシ

萬國事務局ハ工業所有權ノ保護ニ關スル一切ノ報告ヲ蒐集シテ一般ノ統計ヲ調製シ之ヲ各國政府ニ配付スヘシ萬國事務局ハ同盟公共ノ利益ニ關スル事項ヲ講究スヘシ而シテ又諸政府ヨリ受領シタル書類ヲ參照シテ同盟ノ目的ニ關スル諸問題ヲ佛蘭西語ニテ記載シタル定期刊行ノ雜誌ヲ編纂スヘシ

右雜誌並ニ萬國事務局ニ於テ刊行スル他ノ一切ノ書類ハ前ニ記載セル費用分擔額ニ比例セル部數ヲ同盟國政府ニ分配スヘシ

右部數外ニ雜誌若ハ書類ヲ請求スルトキハ其ノ前記政府タルト會社或ハ個人タルトヲ問ハス別ニ代價ヲ支拂フヘキモノトス

萬國事務局ハ常ニ工業所有權ニ關スル萬國事務局問題ニ付同盟國ノ爲ニ其ノ要スル所ノ特殊報告ヲ供スルコトヲ怠ラサルヘシ

次回ノ會議ヲ開クヘキ國ノ政府ハ萬國事務局ノ協力ヲ得テ該會議ノ準備ヲ爲スヘシ

萬國事務局長ハ會議ニ列席シテ討論ニ加入スト雖モ議決ノ數ニ入ラス又同局長ハ其ノ所管事務ニ付毎年報告書ヲ作り之ヲ同盟國ニ報告スヘシ

佛蘭西語ヲ以テ萬國事務局ノ公用語トス

第七 本議定書ハ本日締結セル本條約ト同時ニ批准セラルヘキモノニシテ右條約ノ一部ヲ爲スモノトシ且ツ之ト同一ノ效力及期間ヲ有スルモノトス

萬國工業所有權保護同盟事務局維持ニ關スル議定書

白耳義、伯刺西爾、西班牙、北米合衆國、佛蘭西、大不列顛、瓜地馬拉、伊太利、諾威、和蘭、葡萄牙、瑞典、瑞西及突尼斯國ノ各代表者カ明治二十四年(千八百九十一年)四月十五日西班牙國マドリッドニ於テ作りタル議定書左ノ如シ

第一條 萬國工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ同盟條約附屬議定書第六項第一節ハ之ヲ廢止シ左ノ規定ヲ以テ之ニ代フ

本條約第十三條ニ依リ設置サレタル萬國事務局ノ經費ハ締盟國共同シテ之ヲ負擔スヘシ而シテ其ノ費額ハ如何ナル場合ニ於テモ一箇年六萬法ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條 本議定書ハ之ヲ批准シ而シテ其ノ批准ハ遅クモ六箇月以内ニマドリッドニ於テ交換スヘシ

本議定書ハ批准交換後一箇月ヲ經テ效力ヲ生スルモノトス而シテ千八百八十三年三月二十日ノ條約ノ一部ヲ爲スモノトシ且ツ之ト同一ノ效力及期限ヲ有スルモノトス

* * * * *

○萬國工業所有權ニ關スル議定事項

明治三十七年(千九百四年)八月五日瑞西國ベルヌ府ニ於テ開設セラレタル萬國工業所有權事務局長及其代表者會議ニ於テ獨逸、埃地利、白耳義、ブルガリヤ、丁抹、亞米利加合衆國、英吉利、佛蘭西、匈牙利、伊太利、日本、リユクサンブル、墨西哥、諾威、和蘭、葡萄牙、瑞典、瑞西及突尼斯國ノ各代表者カ工業所有權事項ニ關シ各國現行規則ヲ或ル程度マテ一致セシムル目的ヲ以テ會議ヲ開キ議定セルコト左ノ如シ

一 本議定書ノ附録中ニ記載スル規定即チ本會一致ヲ以テ決議シタル規定カ將來發明特許及製造標又ハ商標ニ關シ關係各國ノ法規ノ基礎トセンコトヲ希望ス

二 關係各國カ上記ノ基礎ヲ其ノ法規中ニ採用セシ後ハ關係各國ノ協議ニ依ルノ外之ヲ變更改廢セサランコトヲ希望ス

三 關係各國法規ノ基礎トナスヘキ規則ハ本議定書ニ署名シタル各代表者ヨリ各本國施行規則中ニ採用スルタメ之ヲ各政府ニ提出スヘシ

四 本會議ニ於テ決議シタル事項ハ其ノ範圍内ニ於テ各國政府ノ常ニ遵奉シ得ル最高限ヲ爲サンコトヲ希望ス

本議定書ニ對スル例外

(1) 合衆國代表者ハ圖面ノ形ニ關シ合衆國ニ於テ使用スル寸法即チ縱十五「インチ」(三十八「センチメートル」)横十「インチ」(二十五「センチメートル」)ニシテ「イシチ」ノ單一ナル線ヲ引クコトヲ留保シ二重紙ニ於ケル圖面ノ形ハ合衆國ニ於テ使用セサルヲ以テ實際右留保ノ必

要アリト宣言セリ

伊太利國代表者ハ特許出願ニ關シ代理者ノ委任狀ニ認證ヲ要セストノ規定ハ實際同意スルコト能ハスト宣言セリ

(2) 日本國代表者ハ一般ニ使用セラル、紙ノ形ト書キ方ニ關シ其國ニ特殊ノ事情アルカ故ニ實際

此二點ニ關スル決議ヲ採用スルコトヲ得スト宣言セリ

(3) 瑞典國代表者ハ特許及標章ニ關シ外國政府ノ證明及公文書ニハ認證ヲ要セストノ規定ハ實際之

ヲ採用スル能ハスト宣言セリ

以上各國代表者ノ留保ハ承認セラレタリ

最終議定書附錄

ベルン事務局長及代表者會議ニ於テ採用シタル決議及希望

第一 特許

(一) 明細書

明細書數通ヲ提出スル場合ニアリテハ其ノ本文ハ各通同一ナルコトヲ要ス

明細書ヲ作成スルニハ「堅三三」センチメートル「乃至三十三」センチメートル「横二十」センチメートル「乃至二十二」センチメートル「ノ強靱ナル自紙ヲ以テシ左方ニ四」センチメートル「ノ線ヲ取リ第一頁ノ上部ニハ少ナクモ四」センチメートル「ノ餘白ヲ存スルヲ要ス手書スルト器械ヲ以テスルト石版ニ付スルト印刷スルトハ固ヨリ間フ處ニアラスト雖濃色ニシテ變化セサル「インキ」ヲ用ヒ明瞭ニ各紙ノ第一面ニ記載スルヲ要ス

明細書ノ記載ハ可及的簡明ヲ主トシ冗長反覆セサルヲ要ス

明細書カ數枚ノ紙ヲ要スル場合ニハ通讀ニ不便ヲ感セシメサル方法ニ依リ之ヲ編綴シテ一冊子ト

ナスコトヲ要ス

(二) 圖面

圖面ハ手書スルト石版ニ付スルト印刷スルトハ固ヨリ間フ處ニアラス而シテ其ノ一通若ハ數通ヲ差出スヘシ其ノ數通ヲ差出ス場合ニアリテハ各通同様ニシテ同大ナルヲ要シ其ノ一通ハ寫眞ヲ以テ明瞭ニ縮寫シ得ヘク強靱ニシテ光澤ヲ有シ且着色ナキ白紙面上ニ鮮明ニ黒ク描出シ自餘ノ各通ニハ覆寫布ヲ用フルヲ要ス

圖面ニハ「縱三十三」センチメートル「横二十一」センチメートル「又ハ四十二」センチメートル「ノ紙ヲ用フルヲ要ス

紙端ヨリ二「センチメートル」ヲ隔テ黒色單線ノ輪郭ヲ施スヘシ

尺度ヲ表示スル場合ニハ之ヲ畫キ文字ヲ以テ之ヲ說示スルヲ許サス

但シ發明ノ解説上明細書ニ於テ其ノ部分ヲ表示スヘキ必要アルニアラサレハ圖ノ各部ニ關係符號ヲ付スヘカラス

關係符號ハ濃黒ナル線ヲ以テ之ヲ表シ其ノ形態ハ簡明ニシテ讀ミ易カラシムルヲ要ス

圖面中ニハ説明ヲ記載スヘカラス

紙數ノ多少ニ拘ラス其ノ位置ニ應シ示順的ニ各圖ニ番號ヲ付スヘシ

圖面ニハ出願人ノ氏名、全數及各紙ノ番號ヲ記載シ願書差出人(出願者又ハ代理人)之ニ署名スルヲ要ス

是等ノ符號等ハ圖面以外ニ記載スヘシ

圖面ノ大サハ其ノ圖形ノ粗密ニ應シ之ヲ定ムルヲ妨ケス而シテ三分ノ二ノ寫眞縮寫ニシテ尙容易ニ分明ナルヲ得ハ其ノ大サハ充分ナリトス圖面ノ數ハ實際ノ必要以上ヲ超過スヘカラス場所ハ可

及的節約スルヲ要ス

圖形ノ多數ナル場合ニハ各分離スル爲充分ノ間隔ヲ存スルコトヲ要ス
圖面、文字、數字及圖ノ指示ハ悉ク縦ニ讀ミ得ヘク圖ノ位置ヲ定ムルヲ要ス
數葉ノ紙ヲ用フルヲ妨
ケス
強靱ナル紙ニ描キタル圖面ハ寫眞複寫ニ不都合ナル襞又ハ裂ケ目等ヲ生セサ
ラシムル爲平面ノ儘
之ヲ差出スヘシ
覆寫布ヲ用ヒタル圖面ハ折曲クルコトヲ得

(三) 特許ノ印刷謄本

各國政府ノ注意ヲ以テ印刷シタル特許ノ謄本ハ其行政的行爲ノ目的ヲ以テ調製シタルトキハ
檢印其ノ他特別ノ言明ナキモ規則上確實ナリト認ム

第二 製造標又ハ商標

印 版

公ノ出版物ニ於テ標章ノ再出ニ用ヒントスル印版ハ木、亞鉛其ノ他活版印刷ニ適スル唯一箇ノ並
行四邊形印材ナルヲ要ス
印版ノ厚サハ二「サンチメートル」四ナルヲ要シ縱及横ノ長サハ文字標ニ付テハ六「サンチメー
トル」五、自餘ノ標章ニ付テハ十「サンチメートル」ヲ超過スヘカラス

第三 認 證

(一) 特 許

代理委任狀ハ單ニ特許出願ノ爲メ及合法的保護ヲ享有スルニ必要ナル手續ヲ了スル爲メニ用ヒラ
ルル場合ニアリハテ規則上認證ヲ要セス

會社ノ名ニ於テ特許ヲ出願スルニ當リ一人又ハ數人ノ署名者カ其ノ會社ノ名ニ於テ行動シ得ヘキ
資格ヲ有スルコトハ規則上之ヲ證明セシムルヲ要セス

工業所有權保護事務ヲ管掌スル外國政府カ其ノ事務ニ關シ爲セル證明ハ行政行爲ニ關係スル場合
ニ限リ認證ノ必要ナシ

(二) 標 章

代理委任狀ハ單ニ標章ノ提出及合法的保護ヲ享有スルニ必要ナル手續ヲ了スル爲メニ用キラルル
場合ニアリテハ規則上認證ヲ要セス

當初ノ國ニ於テ出願ヲ了セル事實ヲ證明スル公文書及工業所有權保護事務ヲ管掌スル外國政府カ
其ノ行爲ニ關シ爲セル凡テノ證明ハ其ノ證明カ行政行爲ノ目的ヲ以テ爲シタル場合ニ限リ認證ノ
必要ナシ

第四 統 計

同盟各國ハ毎年外國ニ住所ヲ有スル者ヨリ出願セル特許、意匠及標章ノ件數及其ノ出願中ノヲ受
理シ若クハ登録シタル數トヲ公表センコトヲ望ム而シテ其ノ統計表中ニハ出願人ノ住所ヲ有スル
外國名及出願セラレタル特許、意匠及標章數ヲ記載スルヲ要ス

希 望

- 一 特許、標章ノ出願及之ニ附隨スル書類ニ對シテハ各國共ニ印稅登錄稅等ノ名ニ於テ一層之ヲ
加重スル諸稅ヲ免除センコトヲ希望ス
- 二 本會議ニ於テ決議採用シタル一般ノ規則ハ遲クモ千九百十六年一月一日マテニ代表各國現行法
中ニ效力ヲ有スルニ至ランコトヲ希望ス

* * * * *

○萬國工業所有權保護同盟條約加入國

沿革略記

明治三十二年七月十三日農商務省告示第一號ヲ以テ千八百八十三年三月二十日ニ於テ同盟ニ加入シタル國名ヲ公示シ◎明治三十二年十二月二十八日農商務省告示第三百三號ヲ以テ佛蘭西國及葡萄牙國ノ領地ヲ追加シ◎明治三十二年七月十三日外務省告示第九號ヲ以テ日本帝國カ加入シタル旨◎明治三十六年五月十三日農商務省告示第一號ヲ以テ獨逸國カ加入シタル旨◎明治三十六年九月二十五日農商務省告示第二百一號ヲ以テ墨西哥國カ加入シタル旨◎明治三十七年十二月二十四日農商務省告示第三百三十五號ヲ以テキニパ共和國カ加入シタル旨◎明治三十八年七月十四日農商務省告示第八十二號ヲ以テ英領錫蘭カ加入シタル旨◎明治四十年九月十七日農商務省告示第八十八號ヲ以テ濠洲聯邦カ加入シタル旨◎明治四十二年一月二十七日農商務省告示第十五號ヲ以テ埃地利國及洪牙利國カ加入シタル旨ヲ各公示シタリ

- 一 白耳義
- 一 伯刺西爾
- 一 丁抹(フコロエ島ヲ含ム)
- 一 ドミニケン共和國
- 一 西班牙
- 一 亞米利加合衆國
- 一 佛蘭西、アルゼリー及佛蘭西殖民地
- 佛蘭西殖民地ハ左ノ如シ——マルチニク、ガードループ及其ノ屬地、レユニオン及其ノ屬地(サント、マリ、ド、マダガスカル)、交趾支那、サン、ピエル及ミクロン、ギニヤン、セネガル及其ノ屬地、コート、デイ、ウオアール、ダオメー及其ノ屬地、佛領ギネー、佛領コンゴ、マヨット、ノシベ、佛領印度(ボンヂセリー、ジャンデナゴール、カリカル、マエ、ヤナオン等)、新カレドニー及其ノ屬地、太平洋洲佛領地(タイチー及其ノ屬地)、オボック及マダカスカル
- 一 英吉利(ニュー、ジールランド及クキンズランド)
- 一 伊太利
- 一 諾威
- 一 和蘭(蘭領印度、スリナム及クラサオ)
- 一 葡萄牙(アソール及マデールヲ含ム)
- 一 塞爾維
- 一 瑞典
- 一 瑞西
- 一 突尼斯

- 以上明治十六年(千八百八十三年)三月二十日加入
- 一 日本
- 右明治三十二年(千八百九十九年)七月十五日加入
- 一 獨逸
- 右明治三十六年(千九百三年)五月一日加入
- 一 墨西哥
- 右明治三十六年(千九百三年)九月七日加入
- 一 キニパ

萬國工業所有權保護同盟條約加入國

右明治三十七年(千九百四年)十一月十七日加入

一英領錫蘭

右明治三十八年(千九百五年)六月十日加入

一濠州聯邦

右明治四十年(千九百七年)八月五日加入

一埃地利國及洪牙利國(ボスニヤ國及ヘルゼゴヴナ國ヲ含ム)

右明治四十二年一月一日加入

* * * * *

○工業所有權ニ關スル帝國ト諸外國トノ條約

工業所有權ニ關シ帝國ト條約ヲ締結シタル國名及年月日ハ左ノ如シ

- 獨逸國 通商條約 一八九六年四月四日
- 埃地利國及洪牙利國 通商條約 一八九七年十二月五日
- 白耳義國 通商條約 一八九六年六月二十二日
- 支那 追加條約 一九〇三年十月八日
- 丁抹國 通商條約 一八九五年十月十九日
- 西班牙國 通商條約 一八九七年一月二日
- 亞米利加合衆國 通商條約 一八九四年十一月二十二日
- 亞米利加合衆國 韓國ニ於ケル相互保護條約 一九〇八年五月十九日

亞米利加合衆國

清國ニ於ケル相互保護條約

一九〇八年五月十九日

佛蘭西國

通商條約

一八九六年八月四日

佛蘭西國

協約

一八九八年一月二十日

佛蘭西國

在本邦佛國公使ノ通知文

一八九九年十一月二十三日

英吉利國

通商條約

一九〇〇年二月七日

英吉利國

通商條約

一八九四年七月十六日

伊太利國

在本邦英國公使ノ通知文

一八九五年十一月二十六日

伊太利國

通商條約

一八九四年十二月一日

諾威國

通商條約

一八九六年五月二日

和蘭國

通商條約

一八九六年九月八日

秘露國

通商條約

一八九五年三月二十日

葡萄牙國

通商條約

一八九七年一月二十六日

露西亞國

通商條約

一九〇七年七月十五日

瑞典國

通商條約

一八九六年五月二日

瑞西國

通商條約

一八九六年十一月十日

* * * * *

○追加日清通商航海條約(拔萃)

明治三十七年
一月十九日公布

第五條 清國政府ハ清國臣民カ日本國臣民ノ有スル登録濟商標ヲ侵害スルヲ禁遏スル爲メ必要ナル

工業所有權ニ關スル帝國ト諸外國トノ條約 追加日清通商航海條約(拔萃)

規則ヲ設ケ且誠實ニ之ヲ執行スヘキコトヲ約ス
清國政府ハ又清國語ヲ以テ編製シ且特ニ清國人ノ使用ニ供スル爲メ作製セラレタル書籍冊子地圖
及海圖ニ關シ日本國臣民ノ有スル登錄濟版權ヲ保護スル爲メニ必要ナル規則ヲ制定スヘキコトヲ
約ス

清國政府ハ登録局ヲ設置シ商標及版權保護ノ爲メ今後同國政府ニ於テ制定スヘキ規則ノ定ムル所
ニ從ヒ其ノ保護ヲ求ムル外國商標及版權ノ登録ヲ爲スヘシ

日本國法律規則ノ定ムル所ニ從ヒ正當ニ登録セラレタル清國商標及版權ハ日本國ニ於ケル侵害ニ
對シ同様ノ保護ヲ受クルコト勿論タルヘシ

本條ハ清國ノ安寧ヲ害セントスル公刊物ノ著作者所有主若ハ販賣人タル日本國臣民又ハ清國臣民
ヲ法律ノ正當ナル進行ニ對シ庇護スルモノト解ズヘカラス

(參照)

英清通商條約 (西曆千九百二年九月五日締結)

第七條 不列顛國政府ハ不列顛國臣民ノ侵害、偽造又ハ模造ニ對シ清國商標ニ保護ヲ與フルカ故ニ清國政府モ亦清國臣民ノ侵

害、偽造又ハ模造ニ對シ不列顛國商標ニ保護ヲ與フルコトヲ約ス

且清國政府ハ北洋南洋通商大臣各其ノ管轄區域内ニ於テ海關ノ監督ニ屬スル官衙ヲ設ケ相當ノ手数料ヲ徵シ外國通商ヲ登錄
セシムヘキコトヲ約ス

(參照)

米清通商條約 (西曆千九百三年十月八日締結)

第九條 合衆國ハ何レノ國チ問ハス條約ニ依リ合衆國人民ニ對シ之ト同一ノ保護ヲ與フルコトヲ諾スルモノニ對シテハ合衆國

内ニ於テ合法商標ノ專用ニツキ該國人民ヲ保護スヘキコトヲ約ス故ニ清國政府ハ清國臣民ヲシテ合衆國內ニ於テ之ト同一ノ
保護ヲ收メシムカ爲メ合衆國ノ人民、會社又ハ組合カ合衆國內ニ於テ專用ノ權利ヲ有シ若ハ清國內ニ於テ専用ノ爲ニ已
ニ採用行使シ又ハ登録ヲ受ケ次第採用行使セントスル合法商標ヲ清國內ニ於テ専用スルコトニツキ充分ノ保護ヲ致スヘキ

コトヲ茲ニ約諾ス此レカ爲メ清國政府ハ當該官吏ヲシテ法律ノ效力ヲ有スル布告ヲ發シ以テ合衆國人民ノ所有ニ屬シ清國官
吏ノ定規調査ヲ經タル後相當ノ規則ニ從ヒ相當ノ手数料ヲ納付シタル上清國政府カ其ノ爲ニ設置スヘキ官署ニ於テ合衆國當
該官吏カ登錄ヲ了シタル商標ヲ侵害、偽造、模造又ハ情ヲ知りテ其ノ偽造ヲ行使スルコトヲ清國臣民ニ禁止セシムヘキコトヲ
約ス

第十條 合衆國政府ハ合衆國ニ於テ清國臣民ニ其ノ發明品ニ對シ特許ヲ受クルコトヲ許シ且其ノ特許ノ使用及ヒ所有權ニ關シ
清國臣民ヲ保護スルヲ以テ清國政府ハ茲ニ特許局ヲ創設スヘキコトヲ約ス該局ニシテ創設セラレ且發明品ニ關スル特別ノ法
律制定セラレタル上ハ清國政府ハ其ノ販賣カ清國ニ於テ合法ニシテ且清國臣民ノ前發明ヲ侵害セサル物品ニ關シ合衆國政府
カ其ノ人民ニ與ヘタル一切ノ特許ニ對シ清國臣民ニ特許ヲ與フルト同一ノ方法ニ依リ合衆國人民ニ於テ制規ノ手数料ヲ納付
ノ上ハ之ニ一定ノ年期間有效ノ保護證ヲ下付スヘキモノトス

* * * * *

○韓國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ保護ニ關スル日米條約

明治四十一年八月十二日公布
條約 第四號

沿革略記

明治四十一年五月十九日亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ兩國全權委員記名調印シ八月六日批准交換ヲ經同
年八月十二日條約第四號ヲ以テ之ヲ公布シ明治四十一年八月十六日ヨリ實施

第一條 日本國政府ハ發明、意匠、商標及著作權ニ關シ現ニ日本國ニ行ハルルト同様ノ法令カ本條約
ノ實施ト同時ニ韓國ニ於テ施行セラルルコトト爲スヘシ

右法令ハ韓國ニ於ケル米國人民ニ對シテモ日本國臣民及韓國臣民ニ對スルト同シク適用セラルヘ
キモノトス前項ニ指示シタル日本國ノ現行法令カ今後改正セラルルトキハ韓國ニ於テ施行セラレ

韓國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ保護ニ關スル日米條約

タル法令モ亦改正法令ノ趣旨ニ依リ修正セラルヘシ

第二條 亞米利加合衆國政府ハ米國人民ニシテ韓國内ニ於テ保護ヲ受クヘキ特許發明、登錄意匠、登錄商標又ハ著作權ヲ侵害シタルモノアリタル場合ニ右米國人民カ本件ニ關シ韓國ニ於ケル日本國裁判所ノ裁判管轄權ニ專屬スヘキコトヲ約シ合衆國ノ治外法權ハ此ノ事ニ關シ之ヲ拋棄スルモノトス

第三條 亞米利加合衆國ノ所屬地ノ人民ハ本條約ノ適用上米國人民ト同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス

第四條 韓國臣民ニシテ合衆國ノ法令ニ定メタル手續ヲ履行スルトキハ同國內ニ於テ發明、意匠、商標及著作權ニ關シ米國人民ト同一ノ保護ヲ享受スヘシ

第五條 第一條ニ依ル法令ノ施行以前米國人民カ日本國ニ於テ特許ヲ受ケタル發明又ハ登錄ヲ受ケタル意匠、商標若ハ著作權ハ別段ノ手續ヲ要セス日本國臣民又ハ韓國臣民ノ同様ニ特許又ハ登錄ヲ受ケタル工業所有權又ハ著作權カ韓國内ニ於テ保護セラルルト同一ノ保護ヲ本條約ニ依リ同國內ニ於テ享受スヘシ

第六條 日本國政府ハ商號ノ保護ニ付千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ調印セラレタル萬國工業所有權保護同盟條約ニ依リ米國人民カ日本國ノ版圖内ニ於テ受クルト同一ノ取扱ヲ韓國内ニ於テ米國人民ニ付與スヘキコトヲ約ス

行名ハ本條約ノ適用上之ト商號ヲ看做スヘシ

第七條 本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換セラルヘシ
本條約ハ批准書交換ノ日ヨリ十日ヲ經タル後實施セラルヘシ

* * * * *

○清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日米條約

明治四十一年八月十二日公布
條約 第五號

沿革略記 明治四十一年五月十九日亞米利加合衆國華盛頓ニ於テ兩國全權委員記名調印シ八月六日批准交換ヲ經同年八月十二日條約第五號ヲ以テ之ヲ公布シ明治四十一年八月十六日ヨリ實施

第一條 締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ他ノ一方ノ當該官衙ニ於テ特許ヲ受ケタル發明又ハ登錄ヲ受ケタル意匠若ハ商標ハ清國各地ニ於テ右他ノ一方ノ臣民又ハ人民ノ侵害ニ對シ右他ノ一方ノ版圖内ニ於ケルト同一ノ保護ヲ享受スヘシ

第二條 締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ文學及美術ノ著作物並寫眞ノ著作權ニ付清國內ニ於テ他ノ一方ノ版圖内ニ於ケルト同一ノ程度ノ保護ヲ享受スヘシ

第三條 締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキ特許發明、登錄意匠、登錄商標又ハ著作權ヲ侵害シタルトキハ被害者ハ加害者所屬國ノ當該裁判所又ハ領事館ニ於テ其ノ國ノ臣民又ハ人民ト同一ノ權利及保護ヲ享受スヘシ

第四條 兩締約國ハ商號ノ保護ニ付千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ調印セラレタル萬國工業

清國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ相互保護ニ關スル日米條約

所有權保護同盟條約ニ依リ其ノ版圖内ニ於テ對手國ノ臣民又ハ人民カ受クルト同一ノ取扱ヲ清國内ニ於テ右對手國ノ臣民又ハ人民ニ付與スヘキコトヲ約ス

行名ハ本條約ノ適用上之ヲ商號ト看做スヘシ

第五條 本條約ノ適用上韓國臣民ハ日本國臣民ト亞米利加合衆國ノ所屬地ノ人民ハ米國人民ト清國內ニ於テ同一ノ取扱ヲ受クヘキモノトス

第六條 兩締約國ハ其ノ治外法權ヲ行使スルコトヲ得ル他國ニ關シ成ルヘク本條約ノ規定ヲ準用ス

キコトヲ約ス

本條約ヨリ生スル一切ノ權利ハ兩締約國ノ所屬地及租借地ニ於テモ尊重セラルヘク右權利ノ侵害ニ對スル法律上ノ救済ハ加害者所屬國ノ當該裁判所ニ於テ之ヲ與フルモノトス

第七條 本條約實施ノ際本條約ノ保護スル他人ノ商標又ハ之ニ類似スルモノヲ不正ニ附シタル商品ヲ有スル者ハ右實施後六月ヲ限リ其ノ商標ヲ除去シ若ハ抹消スルカ又ハ該商品ヲ清國市場ヨリ撤去スルコトヲ要ス

第八條 締約國ノ一方ノ臣民又ハ人民カ明治三十九年五月十日以後公ニシタル文學及美術ノ著作物並寫眞ニシテ本條約ニ依リ保護ヲ受クヘキモノヲ本條約實施前清國內ニ於テ許可ナクシテ複製シタル他ノ一方ノ臣民又ハ人民ハ右實施後一年ヲ限リ該複製物ノ發賣又ハ頒布ヲ廢止スヘキモノトス

第九條 本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准書ハ成ルヘク速ニ東京ニ於テ交換セラルヘシ

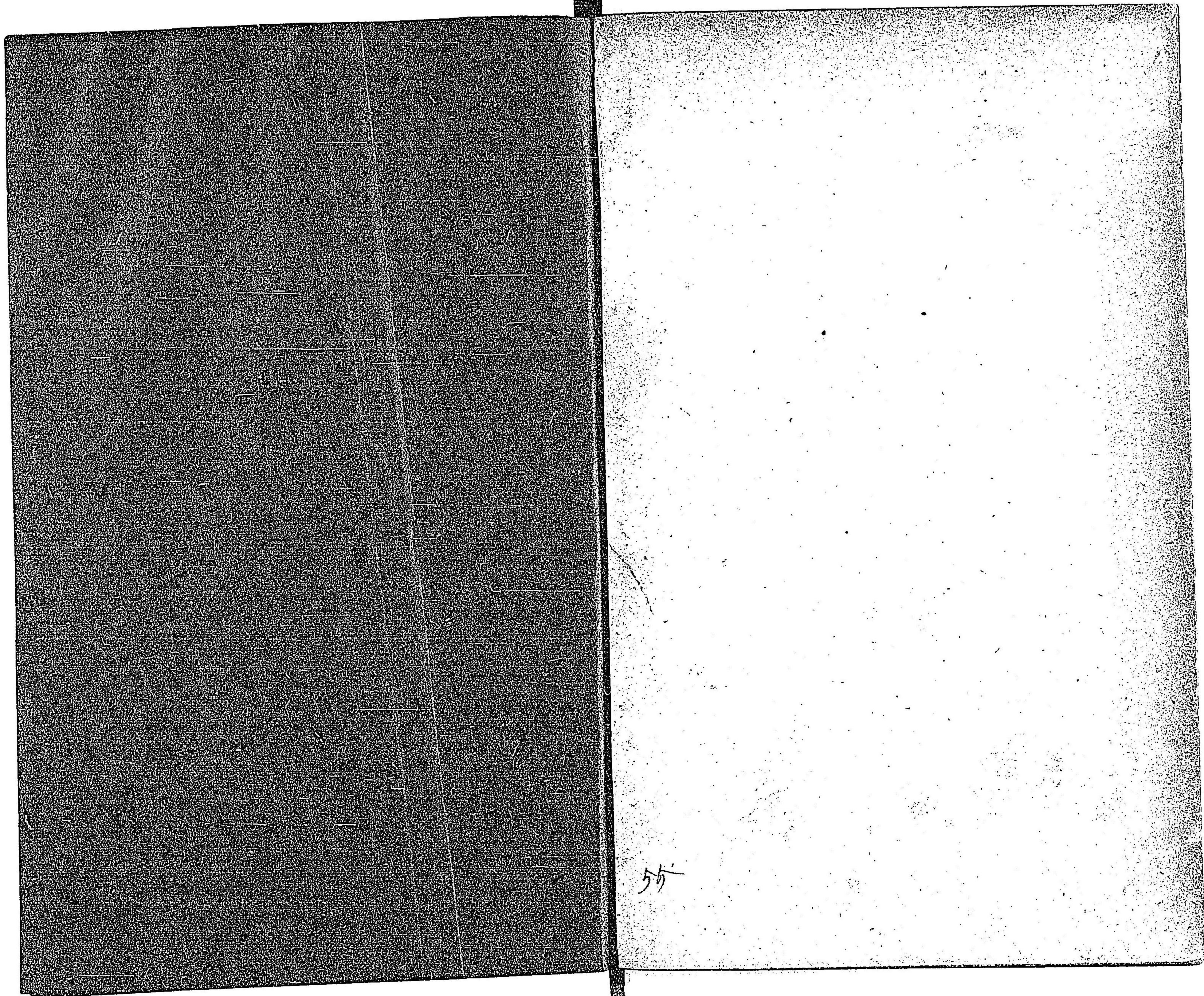
本條約ハ批准書交換ノ日ヨリ十日ヲ經タル後韓國ニ於ケル發明、意匠、商標及著作權ノ保護ニ關スル條約ト共ニ實施セラルヘシ

明治四十二年十一月二十二日印刷

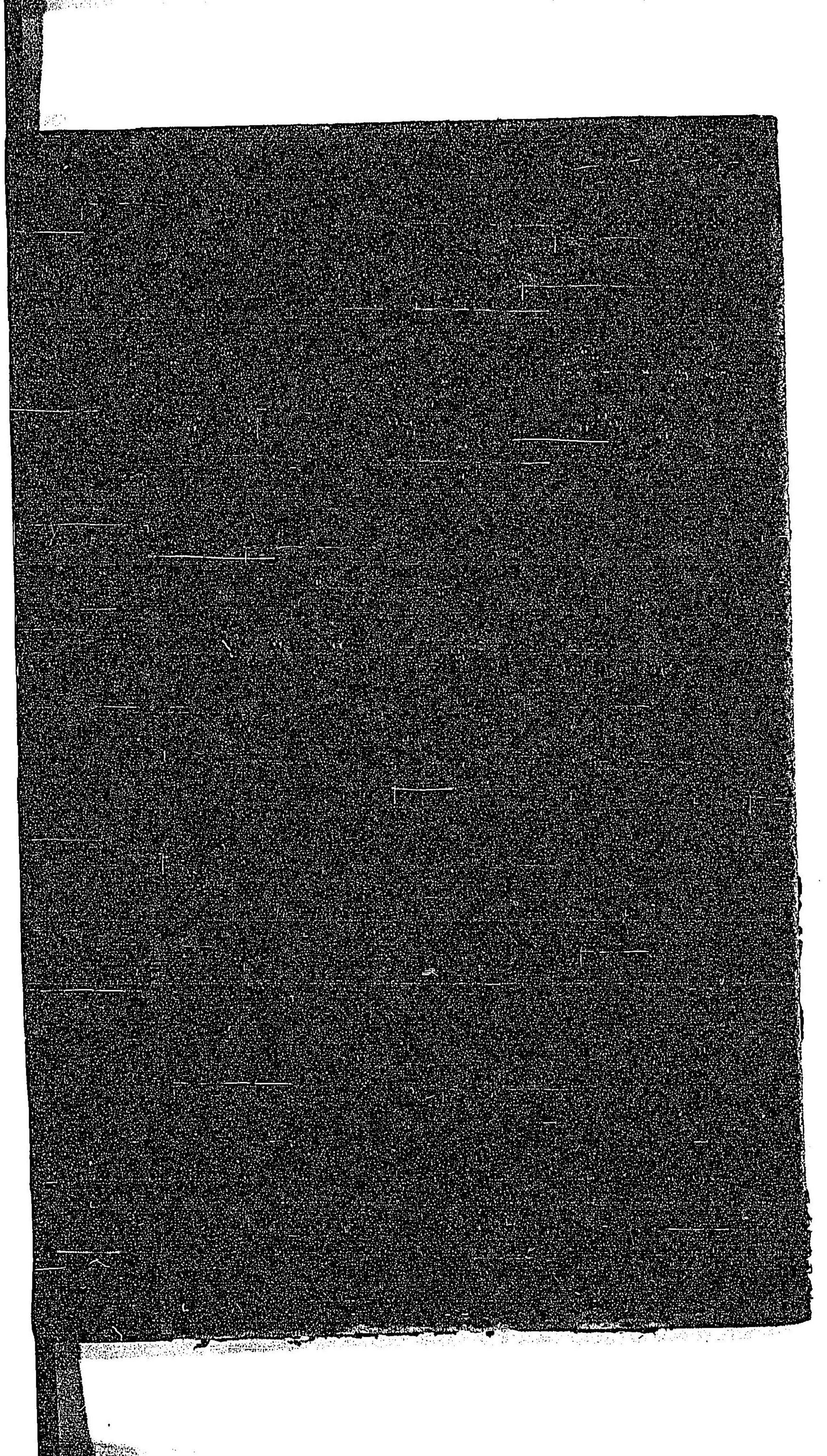
明治四十二年十一月二十五日發行

特許局

電話
本局 二九八番
本局 六五七番
本局 一七二四番



79
5804



79
580